

研究課題名： 網膜変性疾患の進行評価研究

対象：

2000年4月1日以降に京都大学医学附属病院眼科を受診し、網膜変性疾患と診断された20歳以上の患者さん、および、正常と診断された20歳以上の方

網膜変性疾患の代表的な疾患である網膜色素変性では、網膜の視細胞が徐々に障害され、視野狭窄、視力低下が進行します。現在のところ、網膜色素変性に対して有効な治療法は確立されていません。網膜色素変性では病期の進行の経過には個人差が大きいことが知られており、また、視野検査を用いた進行の評価では検査間の変動が起きやすいため、進行の評価には長期の経過をみることが必要と考えられており、新規治療法の開発のハードルとなっています。また、錐体杆体ジストロフィーやコロイデレミア、スタルガルト病、クリスタリン網膜症、黄斑ジストロフィー、先天網膜分離症や、急性帯状潜在性網膜外層症、多発性消失性白点症候群、自己免疫網膜症、癌関連網膜症などの、より希少な網膜変性疾患でも、進行経過の詳細な検討が、治療法の確立のためには必要であると考えます。

今回の研究では、網膜変性疾患の患者さんが当院に受診された際の、視力、視野、光干渉断層計検査、光干渉断層血管撮影、眼底写真、網膜電図などの検査結果を使って、疾患の進行の経過を調べます。また、当院に受診され、正常と判断された方の検査結果を比較対象として使用します。今回の研究により、網膜変性疾患の進行の経過が明らかになれば、今後の新規治療法の開発の際には、治療薬の効果をとらえやすくなり、新規治療法の開発につながる可能性があります。また、データを使わせていただくことに対して、患者さんへの直接的なメリットはありませんが、疾患の進行の経過が明らかになれば、よりの確かな病状説明をできるようになると考えます。他の研究対象者等の個人情報の保護や、知的財産の保護等の研究に支障がない範囲内で、本研究に関する資料をご覧頂くことは可能です。研究期間は、倫理審査承認日から5年間です。それぞれの方のデータは個人を特定できない形で取り扱いますが、データを使用しないことを希望される方はご連絡をください。

※本研究は、京都大学大学院医学研究科・医学部及び医学部附属病院 医の倫理委員会の審査・承認をうけ、研究機関の長の許可を得ています。(受付番号：R2198)

研究責任者：眼科教授 辻川明孝

研究に関する問い合わせと病院の相談窓口

京都大学医学部附属病院 眼科 長谷川智子 [TEL:075-751-3727](tel:075-751-3727)

京都大学医学部附属病院 相談支援センター [TEL:075-751-4748](tel:075-751-4748)

E-mail: ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp